

吉野ヶ里こども園の教育・保育とは！？

—暑い8月虫と遊ぶ、暑さを忘れて夢中になる虫捕り！—

園長 山崎立哉

8月に入り毎日厳しい暑さが続きます。こんな暑い中でも子ども達は戸外遊びが好きで元気に園庭で遊んでいます。私たち保育者は、水分補給や休息を摂ることを心がけ、熱中症に気を付けながら見守っていきたいと思います。

今こども園の園庭は、朝から蝉の声が響き渡り、子ども達は虫取り網を手に蝉を追って所狭ましとばかりに園庭を走り回っています。先月中旬から蝉の鳴き声が聞こえるようになり、こども園の木々の幹に蝉の抜け殻をあちこちで見かけるようになりました。蝉の他にもカブト虫、クワガタ虫、バッタ、カマキリ、トンボ、アゲハ蝶、ダンゴ虫等いろんな昆虫がいっぱいいます。

先日、年長児の男の子が園庭の木々の下で5匹のカブト虫を見つけて捕まえて虫籠に入れてとても喜んでいました。それを見た年中児の男の子たちが「僕にも見せて、見せて！」と叫んでいました。また年長児の男の子が、虫取り網で上手に蝉を捕まえて「園長先生、蝉捕まえたよ！」と得意げに見せてくれました。

このように、子ども達は虫捕りが大好きです。この暑い夏の中、夢中になって虫を追いかけて捕まえます。子どもは虫を捕まえること自体をおもしろいと思います。捕ったものをどうするかよりも、まず捕った虫に触ってみたい、そして、捕った虫と遊びたい、何か動き回るもの、それを玩具にしたいということが関心の全てなのです。

子ども時代に一度は体験したい「虫捕り」です。今は図鑑を読んで夢中になる子どもは多いですが、本物の昆虫を自然の中で見つけた経験を持つ子ども達は少なくなっています。本来、子どもは触ってものを理解していきます。

この暑い8月の時期、こども園の園庭にはいろんな昆虫が沢山います。子ども達には、夢中になって虫を追いかけて、捕まえた喜びを味わってほしいと思います。虫の好きな子ども達は、このような体験をいくつも重ねることによって自然に虫に対する愛情（かわいがること）を育てていて、これが生命の大切さ、尊さを理解する子に育っていくことに繋がります。そのためには、こうした虫を捕り、虫と遊ぶ時期が必要で、幼少期の今が正にその時なのです。